

乙訓圏域障がい者自立支援協議会

令和6年度 第5回「医療的ケア」委員会 会議録

日 時 令和7年1月30日(木) 13:30~15:10

場 所 乙訓総合庁舎 第2会議室

出席者 16名

キャンバス、第2乙訓ひまわり園、向日市社協障がい者地域生活支援センター、乙訓ポニーの学校、乙訓障害者支援事業所連絡協議会、乙訓福祉会、京都府乙訓歯科医師会、京都府歯科衛生士会、京都府立向日が丘支援学校、乙訓の障害者福祉を進める連絡会(2)、乙訓保健所福祉課、向日市障がい者支援課、長岡京市障がい福祉課、大山崎町福祉課
オブザーバー 京都府済生会訪問看護ステーション

欠席者 6名

乙訓医師会、京都済生会病院、乙訓の障害者福祉を進める連絡会(2)、乙訓保健所保健課、乙訓訪問看護ステーション連絡会

事務局 3名

傍聴 3名

配布資料・次第

- ・医療的ケア児等コーディネーター養成研修修了者のフォローアップ交流会 報告
- ・令和6年度医療的ケア児等コーディネーター養成研修修了者フォローアップ交流会(乙訓圏域)「京都府医療的ケア児等支援センターの近況報告」
- ・令和6年度「医療的ケア」委員会 活動報告(案)

会議概要

1 学習会について

副委員長・前回の「医療的ケア」委員会は学習会をさせていただいた。

今回の学習会は就学・就園に関する相談支援事業所からの相談からスタートしている。

就園・就学を後押しするための制度を学んでいこうということで学習会を行った。それぞれの委員が学習会で得た知識やまとめた報告書を各所属に持ち帰り、どのように活かしてもらえるかを考えていただければと思う。

- ・報告書はメールで送らせていただく。報告書と一緒に振り返りを兼ねたアンケートを添付さ

せていただく。それぞれの部署でどのように活かしていけるか、補足や考え等もいただけたらと思う。相談支援事業所連絡会にも報告書をお渡ししたいと思っている。

事務局 ・学習会のまとめを相談支援専門員に活かしていただきたい。障がい福祉の担当課だけでなく教育委員会や子育ての担当課にも共有していただきたい。こういう補助金があり、他の市町でその補助金を活用し、こういう事業ができていることを知っていただきたいという報告である。

2 人材育成・周知活動について

3 医療型短期入所の利用に向けて

※「6 今年度の活動報告について」のところで報告

4 医療的ケア児等コーディネーター養成研修修了者のフォローアップ交流会について

※参考資料：医療的ケア児等コーディネーター養成研修修了者フォローアップ交流会 報告

令和6年度医療的ケア児等コーディネーター養成研修修了者フォローアップ交流会（乙訓圏域）「京都府医療的ケア児等支援センターの近況報告」

副委員長・報告書と京都府医療的ケア児等支援センター「ことのわ」からいただいた近況報告（交流会当日の資料）を付けている。またお読みいただきたい。現状について報告をいただいた。グループディスカッションの内容も載せている。

・参加者からの感想として、「時間に制限があるので、浅く広い議論になりがち。」「業務的なスキルアップに繋がる会があっても良い。」「研修会ではなく交流会というところではお互いの職種と課題を知り合うというテーマでも良いのでは。」「コーディネーター研修は受けたが医療との繋がりが薄い。勉強になった。」「他職種が参加しやすいテーマは何か。難しい。」等があった。

5 施設口腔管理について

副委員長・歯科のかかりつけ医への定期的な受診の大切さと理解を深めていく講話を大橋委員と岩崎委員から相談支援事業所連絡会で行っていただく。日程が変更になり、3月18日の相談支援事業所連絡会で講話をしていただく。

・来年度に向けては3月に講話をしていただくことで相談支援事業所との繋がりもできてくる。その繋がりを大切にしながら相談支援専門員との意見交流、歯科受診での困りごとやどうすれば繋がっていくか等の話し合いができればと考えている。

・地域療育等支援事業がなくなるということで事業がなくなったその後、事業に取り組んできた事業所がその代わりとなる取組をどういう風にされているのか。なくなったことによって、現場の職員がどういったことに困っているのか。施設口腔ケアに対する各事業所の変化、取組がどう変わってきたかを確認しておきたいところでアンケート調査を8月ぐらいに実施したいと考えている。

事務局 ・地域療育等支援事業がなくなるということが明確に言って良いのかがわからないため、報告書等の記録においては断定しない書き方にさせていただきたい。

6 今年度の活動報告について

※参考資料：令和6年度「医療的ケア」委員会 活動報告（案）

副委員長・「医療的ケア」委員会活動報告（案）の1と2について、意見があれば後程いただきたい。

・「3 取組状況」については間違いがないか確認いただきたい。

・「4 今年度の活動報告」、「5 次年度の課題と方針」について確認していきたい。

意見があればお願いしたい。

・「5（1）人材育成・周知活動について」はワーキングチームを作り、取り組んでいくことになると思う。

委員 ・5の（1）、3号研修の話が出ているところで「1人でも多く3号研修の受講や見学につながるよう働きかけを行います。」とあるが、ここはもう少し具体的に現時点で次年度以降について書けるのであれば書いておいた方が良いように思う。

委員 ・乙訓地域の保育園で医療的ケアの必要な子どもを受け入れていただくような体制を作っていたらということで、長岡京市の園長会で3号研修をやっているので受講もしくは見学だけでもいいんじゃないかという呼びかけはさせていただいた。今年度は残念ながら参加はなかった。引き続き子どもを受け入れられるような体制づくりというところで取り組んでいければと思っている。

委員 ・引き継ぎの課題であれば継続して詰められるようなことが書ければ、次年度やることが明確になると思う。

事務局 ・どこに対して、そういった働きかけをしていけばより効果的なのか。福祉課が他課に繋いでもらうことが必要である。幼稚園に関しては昨年の園長会で話をさせていただいた。これまで、保育所や子育て支援課などまわってはいる。

委員 ・色々まわっているとは思いますが人事異動等で人が変わってはいるので、定期的に同じところでも何回も行き、話をしていくのもひとつの手だと思う。同じところでももう一度行き、その後どうか確認をするのであれば、担当課と調整をして同席し説明することはできる。学童にはまだ説明にっていないと思うが、新しく広く知ってもらおうという意味で学童に行くということであればそちらとも調整する。どういう風にもっていくのが効果的なのか話し合い、繋いでほしいということであれば調整していきたい。

事務局 ・来年度、ワーキングチームがスタートした時に相談させていただきたい。まずは3号研修を知ってもらってからだと思っている。

副委員長・文言としては児童に限定して良いだろうか。

事務局 ・児童に関する機関に働きかけて周知していくということになる。

委員 ・「5 次年度の課題と方針」で5項目あがっている。次年度の課題と方針なので、（1）のところでは「企画を検討します。」、（3）でも「フォローアップ交流会を実施します。」と（2）以外は「行います。」や「します。」となっているが、（2）だけ「課題把握は必要です。」という終わり方になっている。ここも必要だからどうするのかという書き方にした方が良く思う。

事務局 ・「春風」を利用するにあたっては必ず基幹相談支援センター（以下、基幹という。）が入ることになっている。基幹でも把握しておくことと、自立支援協議会の事務局として「春風」の立ち上げまで関わっていたので必要に応じて流れ等を説明していた。このワーキングがなくなり、基幹で状況把握をすることになる。自立支援協議会の事務局も兼ねているため、定期的に「医療的ケ

ア」委員会で利用状況等を報告する形が実際の動きだと思う。

副委員長・「基幹相談支援センターで利用状況について把握し、「医療的ケア」委員会の中で報告をしています。」というような書き方にさせていただく。

・5の(4)は「施設口腔管理」としていたが、文章の中で「施設における口腔管理を進めていく」と入れてみたので、「施設における口腔管理について」に変更している。

委員 ・5の(4)については、地域療育等支援事業がなくなるかどうか分からない。現状把握としては、今はやっている。終わってしまったら、どうなるのかを把握する。「現状把握と対策が必要だと考えます。」となるのかなとは思った。

副委員長・5の(5)については必要なことや日々感じていること等、意見をいただきたい。

委員 ・今年度、就園・就学に関する学習会のところで豊中市等の取組を聞かせてもらった経過がある。課題として事例もあがっていたので、就学のところで学んだことを次年度どういう風に繋いでいくかというところは書いておいた方がよい。学習会で学んだことは、乙訓で今後どうしていくのかというところのベースになる話であった。次年度そこからどういう形で、この委員会として取り組むのかというところは、次年度、話し合っていければ良いと思う。

委員 ・歯や口のことに注視しすぎてしまうが、人間は生きていくうえでやらないといけないこと、命を支えるうえで大事なことがある。経管栄養、胃ろう、喀痰吸引、家族に何かあればレスパイト等はすごく大事なことであり、ここで学ばせてもらっている。自分のことだけでなく、総合的に生活を見ることができて、ここに来て良かったと思っている。その中でも口の中はどうしても二の次三の次にされがちになる。それは歯がなくても食べられる人はたくさんいて、虫歯があっても死にはしないが、人間って詰め物と歯のすき間があればずっと舌で触っていると思う。おいしく食べて生きることは大事なことで、言い続けなければいけない。忘れられてしまわないように関わり続けていかないといけない。施設の方の前で話をする機会をもらえることはとてもありがたい。皆にぜひそういうところも忘れずにいてほしいというところを伝えてあげてほしいと思っている。障がいがあり自分から訴えられない人でも実は色々思っていて、訴えていないだけかもしれないということを忘れないようにしないといけない。そういうところで一生懸命関わっていかないといけないと思っている。

委員 ・「医療的」ケア委員会で色々勉強させていただいている。地域療育等支援事業がなくなるかもしれないということで、今までは歯科衛生士として施設に行き、口腔ケアをしていた。こちらから提供するものもあったが、施設の職員や保護者等から情報をいただき、それを元に今の歯科医院での治療等に繋げてきた。地域療育等支援事業の中で口腔ケアに行っていた部分がなくなると、どういう風に地域と接点を持っていけば良いのかというのが、私自身の今後の課題でもある。色々なことを学びながらやっていけたらと思っている。

委員 ・5の(5)の中の3つの項目について、情報共有をして協議検討することは大事だと思うが、実際に変えていけるようなことがその中に出ていけば、文章の後に次年度に向けて変えていけるようなところを掘り下げていくようなことが書ければ良いように思う。よく耳にするのは支援する側の自分の時間がほしいという声や短期入所の利用状況だけでなく、実際に施設がどういう風に増やしていけるか。たくさんあればあるにこしたことはないが経営のこともあるので、気楽に支援者または本人達が必要な時に遠慮なく利用されて、周りの方も生活が豊かになって

いくように変えていけるような、希望が持てるような内容をひとつでも書けると良いと思った。

委員

・当事者家族としてこの会議に臨んでいる。短期入所についても遠方は嫌だと言いながら、「春風」の見学も個人的にさせていただいた。これからは基幹を通じて利用に向けて調整をしていただく段階になった。すごく大きな一歩だと思うが、ただ、夜に泊められるかという二の足を踏むというのが実際のところである。もっと他にも医療機関がある中で、そちらの方でも手をあげてくれるところがあれば良いなというのが家族としての思いである。

・共生型福祉施設ができあがるまで一年ちょっととなった。そこでの短期入所は3床と聞いている。そこに医療的ケアが必要な人達はその3床の中でどれだけ利用できるのか。グループホーム型にしても行動障がいの人達、重心の人も含め、乙訓の地域で住みづかった人達も受け入れられるような施設にするという願いを親の立場として訴え、懇談も重ねてきた。運営法人にも理解していただき、その思いは伝わっていると思っている。共生型福祉施設に対してもどんな風になるのか、どんな人達が入れるのか、通えるのかを注視しながら、「医療的ケア」委員会でもその施設に対してどんな風に関わっていくのか、来年度の課題の中に少し入れてもらっても良いのではないかとと思っている。検討いただきたい。

委員

・共生型福祉施設は利用できるものだと思って期待していた。保護者の間では保護者も老いてきて、今後どうするかということが話題になっている。ショートステイの練習をしないといけなとか、どうしたら良いかという話が多くなってきている。職員も変わるので、練習していて場所に慣れても職員にはなかなか慣れない。新しくできるところには期待をしている。遠いと辛い思いもしないといけないという話も聞いたことがあるので、近くにできるといいなという思いがあり願っている。

委員

・日々の生活で困っていることが、行政職員は年1回の更新手続き等や相談員を通じて聞くことが多く、日々の細かいところまでの把握がなかなか難しいと感じている。相談支援専門員や保護者、日々関わっている学校の先生等の意見というのはすごく大事である。その方達に聞かないとわからないことがまだまだあると感じている。

・医療的ケア児等コーディネーターの配置に関しては障がい福祉計画にも目標としてあげている。ここ数年、協議はされてきていない。圏域でどう設置するのも決まっていない状況がある。長岡京市と配置の考え方で違うことがわかってきた。内部でも話をしてどうしていくのかを考えていかないといけないと思っている。

委員

・医療的ケア児者の生活の部分でいうと「春風」の動きがどんどん具体的になり、開設に至った。まだまだスムーズにというところではもう少し時間が必要のように思う。システムはできたように思うが、その先どうしていくかは詰めきれていないように思うので、振り返りも含めて協議する必要があるように思う。

・医療的ケア児等コーディネーターの配置については各市町で考え方が違うのは良いように思うが、3市町でどうするのかについては情報共有の必要性がある。来年度話をしていく必要があるように思う。

委員

・まだまだ勉強させていただいている状況ではあるが、大山崎町にも医療的ケア児が住んでおられて色々な課題が出てきている。今はまだ就学前だがこの後就学へと続いていく。長岡京市では就学されている方もおられるので、こういった場で引き続き協議、検討させていただき、相談

もさせていただけたらと思う。

オブザーバー・就園、就学については悶々としている時に、「医療的ケア」委員会への参加の声掛けをいただいた。他府県でどんなことをやっているのかを共有できたのは良かった。ただ成功事例があるから、全てにあてはまることにはならない。個別対応、個々も重視して成功体験も参考にしながら動き、保護者が困らないように早急に取り組めれば良いなと思っている。これは継続的に話し合ってほしい内容である。

・共生型福祉施設については保護者がお願いしますという内容より、地域で真剣に取り組んでいかないといけない内容だと思う。どこかのテーブルにあげるのであれば、この委員会が情報共有の場になれば良いのかなと思った。

副委員長・まとめるにあたっては学習会で学んだ内容については次年度に繋げるような形で入れ込んでも良いように思う。学習会で学んだことを次年度の取組にどう活かしていくのかということを書いていくように考えていきたい。

副委員長・共生型福祉施設については取り組んでいくとなった場合、どうだろうか。

委員・中身は決まっているので、どういうメンバーが利用できるのか。具体的にどういう人達がいるには入れて、通えて、利用できるのかはわからないので、せめて短期入所の項目の中にその辺りを注視するような、委員会としてのスタンスをとっておいた方が良いように思う。

副委員長・共生型福祉施設については5の(5)のところで、「医療的ケア」委員会としては注目しているというような形であげていくようにする。

委員・期待はすごく持っているが、短期入所について医療的ケアの人達を受け入れるというような回答はいただけていない。望んでいることは重々承知されていると思う。「医療的ケア」委員会では地域での短期入所を目指していたのであれば、そこを利用できるような施設であってほしい。そこを注視していくような文言を中に入れておいていただければと思う。

副委員長・文言については考えて、まとめさせていただく。

・就園、就学の取組については学習会の後のことについても載せておこうと思う。こちらも文章は考えさせていただく。

・修正したものを活動報告(案)として送るので、確認をお願いしたい。

7 その他

副委員長・安心サポート事業について学校での利用状況について報告をお願いしたい。

委員・本校の利用状況は1名。開始1年目は「利用したいが面倒くさそう。」「医療的ケアの子ども達なのでキャンセル料がかかるなら使わない。」というような声が非常に多かった。1年目から利用される方は府内で何名かおられたが、当初の目標より少ない人数でスタートしている。経過の中で課題が浮き彫りになり、キャンセル料をどうするのか。手続きをどう簡素化していくか。学校の先生と一緒に手続きを行う等。3年目に入り、来年度に向けて今年度の課題をもっと簡素化していこうという話が出ている。例えば、日報(利用する際の健康状態をタクシーに同乗する看護師に伝える連絡帳みたいなもの)があり、それをタクシー会社と訪問看護事業所、学校の3社で共有しそれぞれの施設で保管する。タクシー料金は保護者負担で就学支援のサポートが入り、キャンセル料の割合も変わってくる。訪問介護事業所については国から支払う。色んな手助

けで成り立っている事業のため、どうしても手続きが複雑になる。保護者も忙しいため日報を書き忘れる等が日々起こってくる。その辺りを簡素化しないといけない。学校に行けることはありがたいが普段の生活でも大変で、その後の処理が大変だという声がたくさん出ていた。キャンセル料は事業所に何日前のキャンセルだったか、当日の何時までだったかでキャンセル料の割合が変わってくるため、教師が間に入り確認をしている。良い事業ではあるが、その辺りがまだまだ簡単に使えるものにはなっていないのが現状である。来年度は日報の簡素化、業者が出す請求書も学校の公印無しで事業所から府教委へあげる等、事務処理の簡素化を図ろうという話が出ている。年々変わっている状況である。

副委員長・また何かあれば委員会の中で報告していただき、共有していけたらと思う。

委員　・今年度の京都府医療的ケア児等コーディネーター養成研修が一昨日、昨日の2日間開催されたので報告をさせていただく。今回は6人グループが9班の54名だったが、申し込みは200名近くあった。要件を精査し絞り込んで受講してもらったという状況である。乙訓からは2名が参加している。2日間の最後に圏域ごとで集まり、顔合わせも含めて今後どんな感じでやっていくかという話をしている。今やっているフォローアップ交流会についても2人が新しく加わることになる。よろしくお願いいたします。

副委員長・他に何かあるだろうか。なければ今年度最後の「医療的ケア」委員会を終了させていただく。長時間ありがとうございました。